## 総合人文社会科学研究科

# 学生便覧

2020年度入学生用

信州大学大学院総合人文社会科学研究科

#### 

1.	. 信州大学の理念と目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	• 1
	(1) 信州大学の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	• 1
	(2) 信州大学の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	• 1
2.	. 総合人文社会科学研究科の教育・研究の目標・・・・・・・・・・・・・・・		• 1
3.	. 学位授与の方針 (ディプロマ・ポリシー)・・・・・・・・・・・・・・	•	• 2
	(1) 信州大学大学院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	•	• 2
	(2)総合人文社会科学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 2
4.	. 教育課程編成・実施の方針 (カリキュラム・ポリシー)・・・・・・・・・・	•	• 3
	(1) 信州大学大学院・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 3
	(2)総合人文社会科学研究科・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 4
5.	. 総合人文社会科学研究科の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 5
6.	.履修プロセス概念図・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 5
7.	. 総合人文社会科学研究科授業科目・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 10
8.	. 卒業要件及び履修方法等・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 20
9.	. 信州大学大学院総合人文社会科学研究科学位論文等審査及び最終試験並びに修	<u>了</u> ;	判定
	実施要項・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 21
10.	). 信州大学大学院総合人文社会科学研究科修士論文評価基準・・・・・・・・・		• 24
11.	. 成績評価への疑義申立てについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 25
12.	2. 長期履修学生制度の取扱いについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 25
13.	3. 社会人学生について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 25
14.	1. 資格取得について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 25
15.	5. 休学・復学・退学・研究科間の転科等 ・・・・・・・・・・・・・・・・		• 25
16.	3. 住所等届・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 26
17.	7. 証明書発行・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 26
18.	3. 学習関連の情報・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 26
	(1) 規程について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 26
	(2)公用掲示板・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 26
19.	<ul><li>健康管理について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>		• 26
	(1)総合健康安全センター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 27
	(2) 定期健康診断・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 27
20.	<ul><li>授業料の納付について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・</li></ul>		• 27
21.	. 授業料免除・徴収猶予・月割分納について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 27
	(1) 授業料免除・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		
	(2)授業料徴収猶予・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		• 27
	(3)授業料月割分納・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・		

22.	奨学金について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
23.	台風・大雪等における授業及び試験の取扱いについて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	28
24.	信州大学イコールパートナーシップ委員会からのお知らせ・・・・・・・・・・	30
資料	<ul><li>√信州大学大学院総合人文社会科学研究科における長期履修学生制度の取扱要項」</li></ul>	32

#### 1. 信州大学の理念と目標

#### (1) 信州大学の理念

信州大学は、信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。

信州大学は、その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業 の育成と活性化に奉仕します。

信州大学は、世界の多様な文化・思想の交わるところであり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。

信州大学は、自立した個性を大切にします。

信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つける ためには使いません。

#### (2) 信州大学の目標

信州大学は、その存立の理念に基づき、教育・研究・地域貢献・国際交流において次の目標を掲げます。

#### (教育)

かけがえのない自然を愛し、人類文化・思想の多様性を受容し、豊かなコミュニケーション能力を持つ教養人であり、自ら具体的な課題を見出しその解決に果敢に挑戦する精神と高度の専門知識・能力を備えた個性を育てます。

#### (研究)

人類の知のフロンティアを切り拓き、自然との共存のもとに人類社会の持続的発展を目指した独創的研究を推進し、その成果を地域と世界に発信し、若い才能を引きつける研究環境を築きます。

#### (地域貢献)

信州の自然環境の保全、歴史と文化・伝統の継承・発展、人々の教育・福祉の向上と産業発展の具体的課題に貢献するため、大学を人々に開放し関連各界との緊密な連携・協力を進めます。

#### (国際交流)

諸外国から学生・研究者を積極的に受け入れ、世界に開かれた大学とし、信州の国際交流の大きい推進力となります。

#### 2. 総合人文社会科学研究科の教育・研究の目標

#### (研究科の目標)

総合人文社会科学研究科は、本学の教育・研究の理念である、「信州の豊かな自然、その歴史と文化、人々の営みを大切にします。」、「その知的資産と活動を通じて、自然環境の保全、人々の福祉向上、産業の育成と活性化に奉仕します。」、「世界の多様な文化・思想の交わるところであり、それらを理解し受け入れ共に生きる若者を育てます。」、「自立した個性を大切にします。」、並びに「信州大学で学び、研究する我々は、その成果を人々の幸福に役立て、人々を傷つけるためには使いません。」、に基づき、信州の豊かな自然

環境のもと、地域に根ざし世界に開かれた大学院として、それぞれの専門分野において 社会に資する有為な人材を育成するための教育とその土台となる研究を推進することを 研究科の目標とする。

#### (教育上の目的)

本研究科は、人文科学から社会科学にわたる幅広い学問分野を網羅する利点を生かして、幾つかの要因が複雑に絡み合った地域社会の課題の原因を、確かな専門知識と技能に基づき、他分野の仲間と協力して分析解明し、解決する方策を提示するとともに、地域の特性を生かした新たなプロジェクトを創造提案できる人文社会科学分野の地域中核人材を養成することを教育上の目的とする。

教育の質を保証するための教育体系として、総合人文社会科学研究科(総合人文社会科学専攻)の「入学者受け入れ方針(アドミッション・ポリシー)」及び「教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)」、並びに「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)」の 3 つの方針を策定し、その具現化と整合化を実現する。

#### 3. 学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)

#### (1) 信州大学大学院

信州大学大学院では、俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材を養成するために、以下のように各課程の学位授与方針を定める。

- ・修士課程にあっては、広い視野に立って精深な学識を持ち、専攻分野における研究能力又はこれに加えて高度の専門性が求められる職業を担うための卓越した能力を修得している。
- ・博士課程にあっては、専攻分野について、研究者として自立して研究活動を行い、又 はその他の高度に専門的な業務に従事するのに必要な高度の研究能力及びその基礎と なる豊かな学識を修得している。
- ・専門職学位課程にあっては、高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識及 び卓越した能力を修得している。

#### (2)総合人文社会科学研究科

総合人文社会科学研究科(総合人文社会科学専攻)では、信州大学大学院学位授与の方針のもと、研究科の目標と教育上の目的に則り、社会の課題を分析解明してその解決策を提案するとともに、人文・社会科学分野の地域中核人材・研究者として不可欠な以下の知識と能力等を十分培い、かつ、分野ごとに定められた学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に適う知識と能力等を有する学生に「修士」の学位を授与する。

成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点する。

学位論文に係る評価並びに修了の認定は、客観性及び厳格性を確保するため、その基準をあらかじめ明示するとともに、当該基準に従って適切に行う。

#### 1. 専門基礎力

自身の専門分野における高度な知識と技能を有する。

2. 分析力・応用力

量的・質的分析方法を身につけると同時に、各領域独特の解析手法を学習し、分析力を培うとともに、領域間における手法の差異を認識することにより、各領域の特徴を学び多面的に展開できる応用力を有する。

#### 3. 提案力

多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主力的に取り組み、 問題解決に不可欠な統合的なシナリオを提示する提案力を有する。

#### 4. 俯瞰力

人間と社会を探究する学問分野間の総合的な知見を活かし, 俯瞰的な視野で課題を 捉える力を有する。

#### 5. 倫理観

人文・社会科学分野の地域中核人材・研究者として備わっているべき倫理観を有する。

#### 4. 教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

#### (1) 信州大学大学院

大学院課程における教育課程編成の方針

- 1. 信州大学大学院は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成します。
- 2. 信州大学大学院は、教育課程の編成に当たっては、専攻分野に関する高度の専門的知識及び能力を修得させるとともに、当該専攻分野に関連する分野の基礎的素養を涵養するよう適切に配慮します。

#### 大学院課程における教育課程実施の方針

- 1.信州大学大学院は、専門性の一層の向上を図り幅広い学識を涵養するため、コースワークを充実させ、コースワークから研究指導へ有機的につながる体系的な教育を行います。また、各研究科の「学位授与の方針」に定めた、修了時までに修得すべき知識・能力等がカリキュラム体系のなかでどのように養成されるのかを示すため、シラバスで「学位授与の方針」で定められた知識・能力等との対応を示し、それら諸能力等を修得するプロセスを履修プロセス概念図で示します。
- 2. 信州大学大学院は、学生個々人の主体的で活発な勉学意欲を促進する立場から、授業時間外の多様な学修研究機会を通じ、諸課題に積極的に挑戦させます。
- 3. 信州大学大学院は、成績評価の公正さと透明性を確保するため、成績の評定は、各科目に掲げられた授業の狙い・目標に向けた到達度をめやすとして採点します。
- 4. 信州大学大学院は、修士課程及び博士課程の学位論文審査体制を充実させ、厳格な審査を行います。

#### (2)総合人文社会科学研究科

総合人文社会科学研究科(総合人文社会科学専攻)は、学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)に基づき、以下のようにカリキュラムを編成・実施する。

本研究科の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、研究指導の計画を策定し、体系的に教育課程を編成する。学生は、下記の科目群から担当教員との相談のもと、専門分野の科目(専門基盤科目群、専門発展科目群)を中心に、分野を横断的に学べる科目(共通基幹科目群)について、将来像を明らかにしつつ個々に授業科目を選択する。なお、自身の所属する分野以外の分野の科目を 1 科目以上履修することとする。

#### 共通基幹科目群

#### 共通基礎科目

- ・「解析手法論 I・Ⅱ」(養成する能力:分析力・応用力,俯瞰力) 各専門分野の情報の量的・質的な分析方法を修得する。各分野固有の分析手法を学習 し分析力を身につけるとともに、分野間における手法の差異を認識することにより、多 面的に展開できる応用力を身につける。
- ・「人文社会科学研究者倫理 A・B」(養成する能力:倫理観) 学生がその後の修士学生としての学修・研究生活を送る上での基本的な倫理観を修得する。

#### 分野横断科目

・「社会課題別 PBL A・B」「人文社会科学修論課題合同発表 A・B」(養成する能力:俯瞰力, 分析力・応用力、提案力)

研究成果の発表を、様々な研究領域を有する教員及び大学院生を交えた社会課題別 PBL・人文社会科学修論課題合同発表で行い、他分野における独自の方法論や思考過程を理解し、吸収することで、自身の研究課題の理解がより深まると同時に新規の課題に対する俯瞰力・応用力・提案力を身につける。また、実践的な対話能力・議論能力や、分野外からの研究ヒントによってイノベーティブな研究を志向する力を身につける。

専門基盤科目群(専門分野における高度な知識と技能[専門基礎力])

「分野コア科目」

人文・社会科学の各専門分野のコアとなる科目である。この科目によって学士課程で 身につけた内容から、より高度な専門分野の知識・技能を身につける。

専門発展科目群(養成する能力:専門分野の基礎知識・技能を発展させた内容,分析力・ 応用力,提案力)

·「分野発展科目」

専門基盤科目の発展的内容を修得する。多領域の科目を横断的に修得できる履修体系とすることで、人・社会を探究する学問分野間の総合的な知見を身につけ、俯瞰的・客観的な視野を有しながら、従来の学問領域における未踏分野を開拓する力、複合的な新領域を創造する力を身につける。

「アクションリサーチ系科目」

アクションリサーチとは、直接、本人がその対象課題を持つ地域の現場に赴き、地域住民等の生身の人間と関わって研究を行うスタイル全般を示す。アクションリサーチ系科目は、このような研究スタイルを取り入れた授業で「実習」、「演習」、「実験」形式の授業が主体となる科目である。対象課題は、人間文化学、心理学、経済学及び法学のすべての教育分野とそれらの融合した分野に及ぶことから、人文社会科学分野共通の新しい研究スタイルを授業に取込むことに着目し、「アクションリサーチ系科目」として開講する。この授業では、地域現場でもある産業界等との協働によるインターンシップ(ISP)及びアクティブ・ラーニング(AL)を取り入れた体系的・組織的な教育を一層積極的に進める。多領域のステークホルダーを動員し、地域・社会の課題に対して主力的に取り組むことで、総合的なシナリオを提示できる問題解決能力を身につけ、他者と協働する力を向上させることが狙いである。

#### 5. 総合人文社会科学研究科の構成

総合人文社会科学研究科は以下の専攻・分野で構成されています。

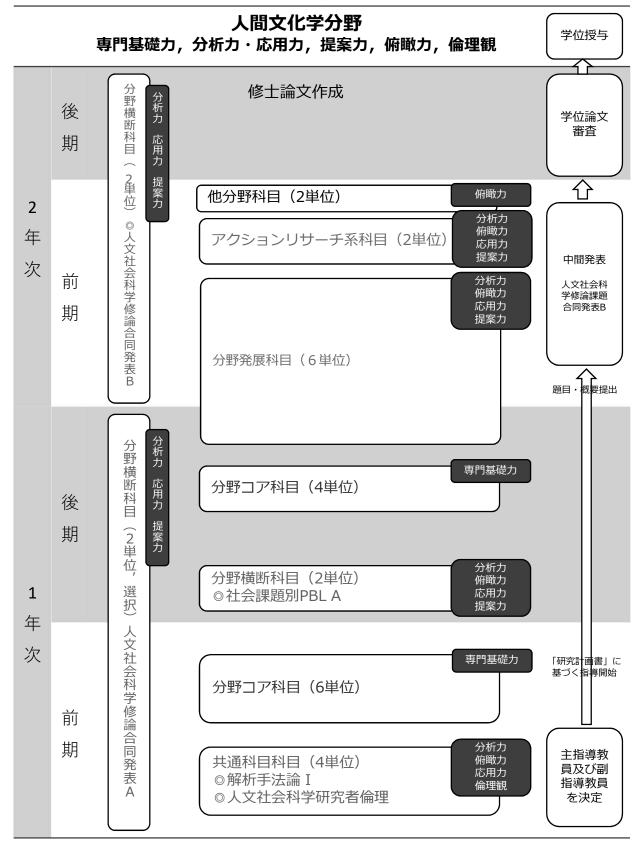
総合人文社会科学専攻

分 野	修業年限	取得できる学位
人間文化学分野	2年	修士(文学)
心理学分野	2年	修士(心理学)
経済学分野	2年	修士(経済学)
法学分野	2年	修士(法学)

#### 6. 履修プロセス概念図

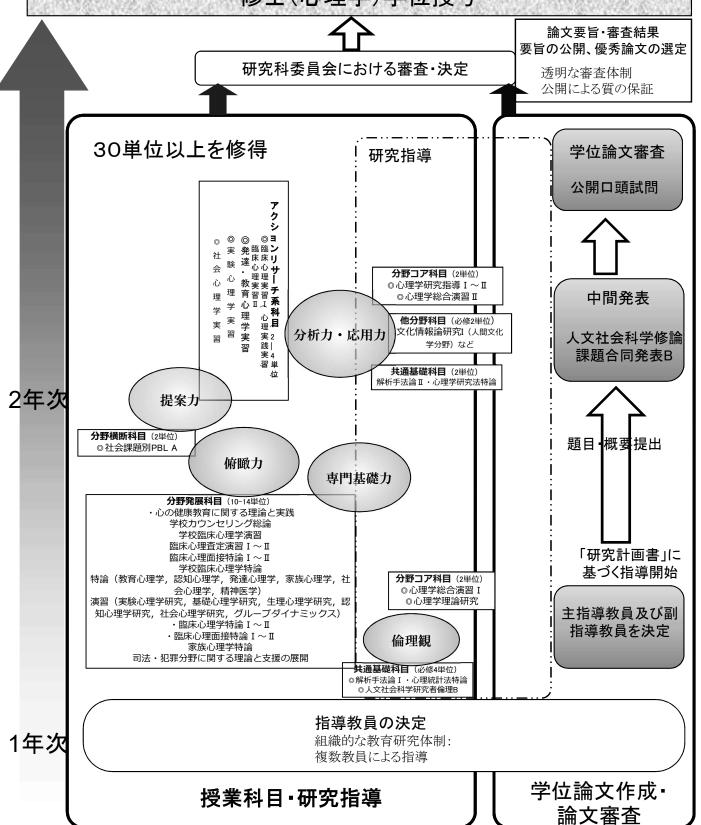
各分野の履修プロセス概念図は次のとおりです。

- 人間文化に関する深い素養と幅広い理解をもとに専門領域の問題を究明する能力(専門基礎力)
- 人文学の伝統的な手法と他の学問分野の解析手法を駆使して課題を分析(分析力・応用力)し, 独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う能力(提案力)
- 人間と社会を探求する学問分野間の総合的な知見(俯瞰力)を活かし、人間文化学に関わる高い 倫理観を有する地域中核人材・研究者(倫理観)



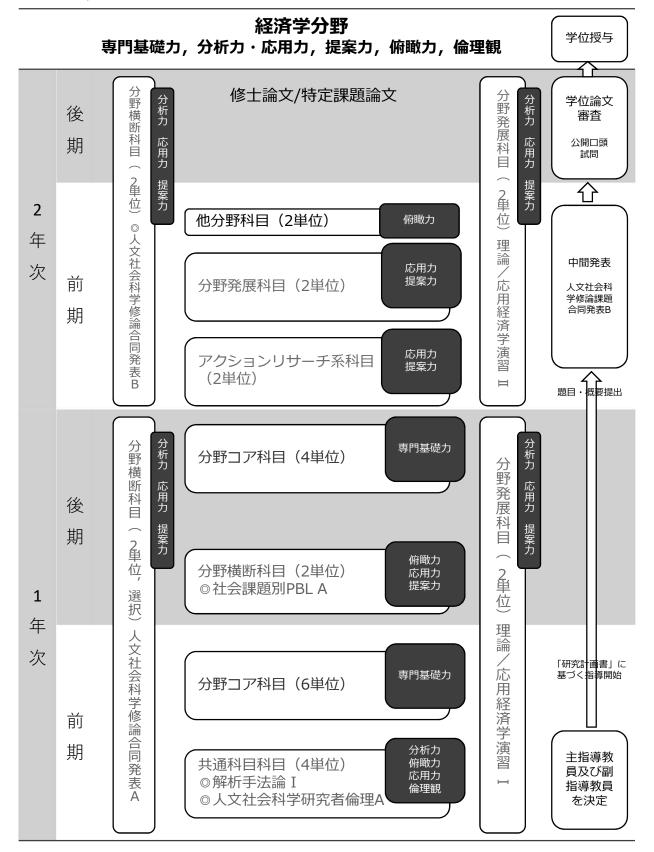
- 専攻する専門領域の基礎学力を有している者(知識・技能)
- 文章などを的確に理解し、それに基づいて判断でき表現できる能力およびプレゼンテーション能力を有している者(能力)
- 学問研究に対する強い意欲を有している者(意欲)
- ・ 社会が抱える課題の解決に、人間文化学的アプローチから取り組む意欲を有している者 (意欲)

### 俯瞰力と独創力を備え、持続可能な価値社会を創造する質の高い 高度専門職業人や、先端的研究を推進する人材 修士(心理学)学位授与



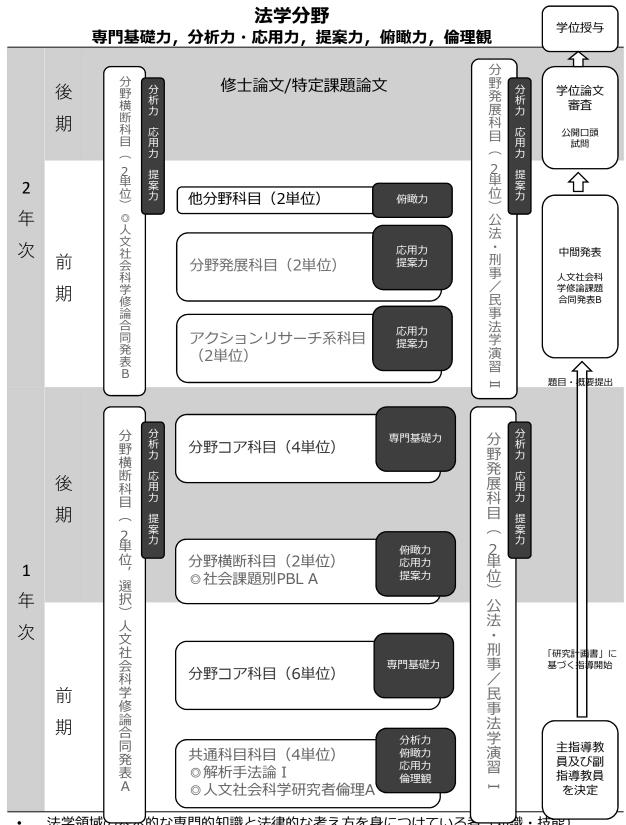
専門領域の基本的な専門的知識・技能、情報の収集・分析を通じた研究を行うために必要な考察力・思考力を有し、 問題関心・課題や分析内容を平易かつ的確に表現することができ、 学問研究に対する強い意欲、社会が抱える課題の解決に取り組む意欲を有している者

- 経済学の高度な専門性(専門基礎力)に裏打ちされた,客観的な一次データに基づいて課題を分析(分析力・応用力)し,解決策を創り出しそれを提案する能力(提案力)
- 隣接する他の社会科学や人文科学と協働(俯瞰力)し,多様な価値観と視点を理解(倫理観)する中で,経済・社会政策を主眼とする経済学分野の地域中核人材・研究者



- 経済学の基本的な専門的知識・技能を有している者(知識・技能)
- 経済学に必要な統計学の基礎的手法における考察力・思考力を有している者(能力)
- 経済学の学問研究に対する強い意欲を有している者(意欲)
- 社会が抱える課題の解決に取り組む意欲、旺盛な知的好奇心とリーダーシップをとるのに相応しいコミュニケーション能力を有している者(意欲)

- 法学の高度な専門性(専門基礎力)に裏打ちされた,課題解決に必要な情報を収集・分析し(分 析力・応用力),法的に妥当な選択肢を提案する能力(提案力)
- 隣接する他の社会科学や人文科学と協働し(俯瞰力), 基本的人権やコンプライアンスを尊重す る姿勢を身につけた(倫理観)、法学分野の地域中核人材・研究者



- 法学領域シースののな専門的知識と法律的な考え方を身につけているも、小一哉・技能が
- 情報の収集・分析を通じた研究を行うために必要な考察力・思考力を有し、問題関心・課 題や分析内容を、法律的な考え方に基づいて、平易かつ的確に表現することができる者 (能力)
- 法学領域の学問研究に対する強い意欲を有している者(意欲)
- 社会が抱える法的課題の解決に取り組む意欲を有している者(意欲)

## 7. 総合人文社会科学研究科授業科目 (総合人文社会科学研究科 総合人文社会科学専攻)

					単位数	(	授	受業形	態	
科 E		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	備考
				修	択	田	義	殟	実 習	
共通	共通	解析手法論 I	1・2前		2		0			2 単 共同
共通基幹科	基	解析手法論 I · 心理統計法特論	1・2前		2		0			2 共同 世位 選択 必修
幹	礎 科	解析手法論Ⅱ	1・2後		2		0			修 共同
目	目	解析手法論Ⅱ・心理学研究法特論	1・2後		2		0			2 単
群		人文社会科学研究者倫理A	1・2前		2		0			2 単位
		人文社会科学研究者倫理B	1・2前		2		0			。 修 共同
		小計(6科目)	_	0	12	0		_		
	分野	人文社会科学修論課題合同発表A	1通		2			0		共同・集中
	分野横	人文社会科学修論課題合同発表B	2通	2				0		共同・集中
	断科	社会課題別PBL A	1後	2				0		共同
	目	社会課題別PBL B	2前		2			0		共同
		小計 (4科目)	_	4	4	0		_		

						単位数	[	授	受業形態	態	
	科目		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	備考
	玄ケ	Ĵ			修	択	由	義	習	実習	
人	専	人	哲学思想論	 1前		2		0		П	オムニバス
間文	門基	間	文化情報論・社会学論	1前		2		0			オムニバス
化	盤	化	歴史学論	1前		2		0			2 単 オムニバス
学分		学分	日本言語文化論	1前		2		0			単 カユーバス 位 選 オムニバス
野		野	英米言語文化論	1前		2		0			世 択 必 オムニバス
Ш		コア	比較言語文化論	1前		2		0			修 オムニバス
Ш		科	芸術コミュニケーション論	1前		2		0			オムニバス
Ш		目	哲学思想論総合演習 I (哲学総合)	1前		2			0		オムニバス
Ш			哲学思想論総合演習Ⅱ(比較思想)	1後		2			0		オムニバス
Ш			文化情報論・社会学総合演習Ⅰ(現代文化)	1前		2			0		オムニバス
Ш			文化情報論・社会学総合演習Ⅱ (社会情報)	1後		2			0		オムニバス
Ш			歴史学総合演習 I (日本史学研究法)	1前		2			0		オムニバス
Ш			歴史学総合演習Ⅱ (西洋史·東洋史学研究法)	1後		2			0		オムニバス
Ш			日本言語文化総合演習 I (異文化としての日本語・日本文学)	1前		2			0		4 単 位 オムニバス
Ш			日本言語文化総合演習 II (古代日本語文献コミュニケーション論)	1後		2			0		選択オムニバス
Ш			英米言語文化総合演習 I (英語学)	1前		2			0		必 修 オムニバス
Ш			英米言語文化総合演習 II (英米文学文化)	1後		2			0		オムニバス
Ш			比較言語文化総合演習 I (散文)	1前		2			0		オムニバス
Ш			比較言語文化総合演習 II (韻文)	1後		2			0		オムニバス
Ш			芸術コミュニケーション総合演習I(理論と歴史)	1前		2			0		オムニバス
Ш			芸術コミュニケーション総合演習Ⅱ(個別研究)	1後		2			0		オムニバス
Ш			哲学思想論実践演習I(アカデミックリテラシー)	1前		2			0		共同
Ш			哲学思想論実践演習Ⅱ(イノベーションコンピテンシー)	1後		2			0		共同
Ш			社会学実践演習 I (社会学の理論と実証)	1前		2			0		
Ш			社会学実践演習Ⅱ(質的研究法)	1後		2			0		
Ш			文化情報論実践演習 I (内容分析)	1前		2			0		共同
Ш			文化情報論実践演習Ⅱ(行動調査)	1後		2			0		共同
Ш			歴史学実践演習 I (史学概論・日本史)	1前		2			0		共同
Ш			歴史学実践演習Ⅱ(史学概論・西洋史・東洋史)	1後		2			0		共同
Ш			日本文学実践演習 I (韻文)	1前		2			0		共同
Ш			日本文学実践演習Ⅱ(散文)	1後		2			0		共同
Ш			日本語学実践演習 I (古代語)	1前		2			0		
Ш			日本語学実践演習Ⅱ (近代語)	1後		2			0		
Ш			日本語教育学実践演習 I (言語研究と言語教育)	1前		2			0		4 単
Ш			日本語教育学実践演習Ⅱ(第二言語習得・学習)	1後		2			0		位選
Ш			中国語学・文学実践演習I(中国文学)	1前		2			0		択 必 共同
Ш			中国語学・文学実践演習Ⅱ(現代中国語学)	1後		2			0		修 共同
			比較文学実践演習 I (詩)	1前		2			0		共同
			比較文学実践演習Ⅱ (小説)	1後		2			0		共同
			フランス語学・フランス文学実践演習 I (基礎的方法論)	1前		2			0		共同
			フランス語学・フランス文学実践演習 II (発展的方法論)	1後		2			0		共同
			ドイツ語学・ドイツ文学実践演習 I (ドイツ語学研究)	1前		2			0		共同
			ドイツ語学・ドイツ文学実践演習 II (文学研究方法論)	1後		2			0		共同
			英語学実践演習 I (英語学概論)	1前		2			0		
			英語学実践演習Ⅱ(英語学方法論研究)	1後		2			0		
			英語文学実践演習 I (イギリス文学文化)	1前		2			0		共同

	英語文学実践演習Ⅱ (アメリカ文学文化)	1後	2		共同
	芸術コミュニケーション実践演習 I (リサーチ・ベース)	1前	2		共同
	芸術コミュニケーション実践演習Ⅱ (パブリケーション・ベース)	1後	2	0	共同
	小計 (49科目)	_	98	_	
厚 ア	哲学思想論AR I (哲学的対話の方法)	2前	2	0	オムニバス
引 後 シ	哲学思想論ARII (哲学的対話の実践)	2後	2		オムニバス
民ヨ	文化情報論・社会学AR I (調査企画設計)	2前	2		オムニバス
斗 ン    リ	文化情報論・社会学AR II (総合調査法)	2後	2		オムニバス
単サ	歴史学AR I (史料調査法・日本史)	2前	2		オムニバス
ーチ	歴史学ARII (史料調査法・西洋史・東洋史)	2後	2		オムニバス
系		2前	2		オムニバス
科目	日本言語文化ARII (近代を中心とする日本語文献コミュニケーション論)	2後	2		オムニバス
	英米言語文化AR I (英語学)	2前	2		オムニバス
	英米言語文化ARⅡ (英米文学文化)	2後	2		オムニバス
	比較言語文化AR I (多文化交流サロン)	2前	2		オムニバス
	比較言語文化ARII (外国語サロン)	2後	2		オムニバス
	芸術コミュニケーションAR I (創作と芸術実践)	2前	2		オムニバス
	芸術コミュニケーションARII (芸術実践と展開)	2後	2		オムニバス
	小計(14科目)	_	28	-	
人	哲学思想論研究Ι (心と科学)	1後・2前	2	0	隔年
間文		1後・2前	2		隔年
化	折受田相診研究Ⅲ (西洋折受)	1後・2前	2		隔年
学分		1後・2前	2		隔年
野	哲学思想論研究V (比較思想の理論)	1後・2前	2		隔年
発展	松兴田相外西郊西 (川林田相の七社)	1後・2前	2		隔年
科		1後・2前	2		隔年
目	哲学思想論研究(東洋思想)	1後・2前	2		隔年
	社会学研究 I (社会学理論構築法)	1後・2前	2		隔年
	社会学研究Ⅱ (環境・地域社会学)	1後・2前	2		隔年
	文化情報論研究 I (批判的思考)	1後・2前	2		隔年
	文化情報論研究Ⅱ(科学的懐疑論)	1後・2前	2		隔年
	文化情報論研究Ⅲ (多変量解析)	1後・2前	2		隔年
	文化情報論研究IV(消費行動)	1後・2前	2		隔年
	文化情報論研究 V (社会的行動)	1後・2前			隔年
	文化情報論研究VI(メディアコミュニケーション)	1後・2前			隔年
	日本史研究 I (日本近世史研究)	1後・2前	2		隔年
	日本史研究Ⅱ(日本近世史料論)	1後・2前	2		隔年
	日本史研究Ⅲ(日本近代社会史)	1後・2前	2		隔年
	日本史研究IV(日本現代社会史)	1後・2前	2		隔年
	東洋史研究I(アジア近世・近代史)	1後・2前			隔年
	東洋史研究Ⅱ(中国近世・近代史)	1後・2前	2		隔年
	西洋史研究 I (経済)	1後・2前			隔年
	西洋史研究Ⅱ(社会)	1後・2前			隔年
	日本文学研究 I (古代 - 中世期文学)				<b>II</b>
	日本文学研究 I (古代·中世朔文字) 日本文学研究 II (散文)	1後・2前			隔年
	日本文字研究Ⅱ(舣文) 日本文学研究Ⅲ(近世 - 明治期文学)	1後・2前	2		隔年
		1後・2前	2		隔年
	日本文学研究IV(韻文)	1後・2前	2		隔年
	日本語学研究 I (歴史言語学)	1後・2前	2		隔年
	日本語学研究Ⅱ(言語の社会性)	1後・2前	2		隔年
	日本語教育学研究 I (第二言語指導の理論と技術)	1後・2前	2		隔年

中国文学研究 I (古典詩)	1後・2前		2		0	隔年
中国文学研究Ⅱ (古典文)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
中国語学研究 I (現代中国語文法)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
中国語学研究Ⅱ (現代中国語意味論)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
比較文学研究 I (西洋古典韻文講読)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
比較文学研究Ⅱ (西洋古典散文講読)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
比較文学研究Ⅲ (近代詩)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
比較文学研究IV(近代小説)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
フランス語学・フランス文学研究 I (文学と思想)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
フランス語学・フランス文学研究Ⅱ (文学とメディア)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
フランス語学・フランス文学研究Ⅲ (詩法)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
フランス語学・フランス文学研究IV (19世紀フランス詩研究)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
ドイツ語学・ドイツ文学研究 I (ドイツ語造語論)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅱ (ドイツ語テキスト分析)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
ドイツ語学・ドイツ文学研究Ⅲ (20世紀ドイツ文学)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
ドイツ語学・ドイツ文学研究IV(ドイツ文学と記憶)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語学研究 I (通時的研究)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語学研究Ⅱ (共時的研究)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語学研究Ⅲ (英語構造論)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語学研究IV (英語テキスト分析)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語文学研究 I (イギリス文学文化)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語文学研究Ⅱ (英語圏文化と映画)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語文学研究Ⅲ (アメリカ文学文化)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
英語文学研究IV (英語圏文化批評と映画)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
芸術コミュニケーション研究 I (現代舞踊論)	1後・2前		2		$\circ$	隔年
芸術コミュニケーション研究Ⅱ(身体論)	1後・2前		2		0	隔年
芸術コミュニケーション研究Ⅲ (現代美術論)	1後・2前		2		0	隔年
芸術コミュニケーション研究IV(彫刻論)	1後・2前		2		0	隔年
芸術コミュニケーション研究V(音楽学研究)	1後・2前		2		0	隔年
芸術コミュニケーション研究VI (音楽と社会)	1後・2前		2		0	隔年
(研究指導)	1~2通	_	_	_		
小計 (62科目)		0	124	0		

					単位数	[	授	受業形	態	
科		   授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	備考
区分	गें	2381114 - 117		修	択	由	義	習	· 実 習	
心専	心。	心理学研究指導 I	2前	2				0		共同
理門学基	理学	心理学研究指導Ⅱ	2後	2				0		長野(教 育) キャン バス在学生
分盤	分	心理学総合演習I	1前	2				0		のみ 共同
野科目		心理学総合演習Ⅱ	1後	2				0		共同
群	ア	心理学理論研究	1前		2			0		オムニバス
	科	心理学総合演習	1後	_	2	_		0		オムニバス
専	目 i ァ	小計(6科目)		8	4	0				www.cirk.
門門	2 2 1	発達・教育心理学実習	2通		2					長野(教 共同 育) キャン バス在学生 44.日
発	y #	実験心理学実習 社会心理学実習	2前		2					のみ 共同
展科		小計 (3科目)	2前	0	2 6	0				
		人間の精神と社会環境特論	 1前	0	2	0	0			
	理	人間の精神と社会環境演習	1後		2			0		
	学分	学習過程論特論	1前		2		0			
	野	学習過程論演習	1後		2			0		
	発	人間形成論特論	1前		2					
	展科	人間形成論演習	1後		2			0		
	目	音楽心理学特論	1前		2		0			
		音楽心理学演習	1後		2			0		
		野外教育グループカウンセリング特 論	1前		2		0			
		野外教育グループカウンセリング演 習	1後		2			0		
		比較教育学特論	1前		2		0			
		比較教育学演習	1後		2			0		
		国際精神保健学特論	1前		2		0			
		国際精神保健学演習	1後		2			0		
		認知工学特論	1前		2		0			
		認知工学演習 家族心理学特論(家族関係・集団・ 地域社会における心理支援に関する 理論と実践)	1後 1·2前・後		2		0	0		隔年 集中
		学校カウンセリング総論(福祉分野に関する理論と支援の展開)	1後		2		0			
		学校臨床心理学演習 (教育分野に関する理論と支援の展開)	1後		2		0			
		教育心理学特論	1前		2		0			
		教育心理学演習	1後		2			0		
		司法・犯罪分野に関する理論と支援 の展開	1・2前・後		2		0			隔年 集中
		社会心理学特論 (産業・労働分野に 関する理論と支援の展開)	1・2前・後		2		0			隔年 集中
		心の健康教育に関する理論と実践	1・2後		2		0			
		精神医学特論 (保健医療分野に関す る理論と支援の展開)	1・2前・後		2		0			隔年 集中
		認知心理学特論	1前		2		0			
		認知心理学演習	1後		2			0		
		発達心理学特論	1前		2		0			

	発達心理学演習	1後		2		0		
1 1 1	実験心理学研究	1後・2前		2		0		隔年
1 1 1	基礎心理学研究	1後・2前		2		0		隔年
1 1 1	認知心理学研究	1後・2前		2		0		隔年
1 1 1	生理心理学研究	1後・2前		2		0		隔年
	社会心理学研究	1後・2前		2		0		隔年
111	グループダイナミックス	1後・2前		2		0		隔年
1 1 1	(研究指導)		-	-	-			
	小計 (35科目)	_	0	70	0	_	-	

						単位数	ζ	授	受業形態	態	
	科目		授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験	備考
	区分	子	2000111		修	択	由	義	習	· 実 習	VII. 3
心	専門	心理	心理学研究指導 I	2前	2				0		共同
理学分	基		心理学研究指導Ⅱ	2後	2				0		共同
分	盤	野コ	心理学総合演習 I	1前	2				0		共同
野	科目	ア科	心理学総合演習Ⅱ	1後	2				0		共同
臨床	群		小計(4科目)	_	8	0	0				
心理	専門で		臨床心理実習 I (心理実践実習)	2通	2					0	共同
学	発展	ンリ	発達・教育心理学実習	2通		2				0	共同
コー	科		臨床心理学基礎実習	1通		2				0	オムニバス
ス	目群		臨床心理実習Ⅱ	2通		2				0	共同
		科目	小計(4科目)	_	2	6	0		_		
			人間の精神と社会環境特論	1前		2		0			
		理学	人間の精神と社会環境演習	1後		2			0		
		分分	学習過程論特論	1前		2		0			
		野	学習過程論演習	1後		2			0		
		発展	人間形成論特論	1前		2		0			
		展科	人間形成論演習	1後		2			0		
			音楽心理学特論	1前		2		0			
			音楽心理学演習	1後		2			0		
			  野外教育グループカウンセリング特論			2		0			
			  野外教育グループカウンセリング演習	1後		2			0		
			  比較教育学特論	1前		2					
			比較教育学演習	1後		2			0		
			国際精神保健学特論	1前		2					
			国際精神保健学演習	1後		2			0		
			認知工学特論			2					
				1前							
			認知工学演習 家族心理学特論(家族関係・集団・	1後		2			0		
			Liver and the contract of the	1・2前・後		2		0			隔年 集中
			学校カウンセリング総論(福祉分野 に関する理論と支援の展開)	1後		2		0			
			学校臨床心理学演習(教育分野に関 する理論と支援の展開)	1後		2		0			
			学校臨床心理学特論	1•2前		2		0			
			教育心理学特論	1前		2		0			
			教育心理学演習	1後		2			0		
			司法・犯罪分野に関する理論と支援 の展開	1・2前・後		2		0			隔年 集中
			社会心理学特論 (産業・労働分野に 関する理論と支援の展開)	1・2前・後		2		0			隔年 集中
			心の健康教育に関する理論と実践	1・2後		2		0			
			精神医学特論(保健医療分野に関す る理論と支援の展開)	1・2前・後		2		0			隔年 集中
			認知心理学特論	1前		2		0			

認知心理学演習	1後		2			0	
発達心理学特論	1前		2		0		
発達心理学演習	1後		2			0	
臨床心理学特論 I	1前		2		0		オムニバス
臨床心理学特論Ⅱ	1前		2		0		
臨床心理査定演習 I (心理的アセスメントに関する理論と実践)	1後		2			0	
臨床心理査定演習Ⅱ	1前・後		2			0	集中
臨床心理面接特論 I (心理支援に関する理論と実践)	1前		2			0	
臨床心理面接特論Ⅱ	1後		2		0		
小計 (36科目)	_	0	72	0		_	

						単位数	ζ	授	受業形態	態	
科 区:			授業科目の名称	配当年次	必	選	自	講	演	実験・	備考
					修	択	由	義	習	実 習	
経専済門	早日 治	経済	上級ミクロ経済学	1前		2		0			
学基	֓֞֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓֓	学八	上級マクロ経済学	1前		2		0			
学分野	2 里	野	上級計量経済学	1前		2		0			
野科	¥  5	コア	財務会計特論	1後		2		0			
		科日	法制度の経済分析特論	1後		2		0			
	Ί,		環境経済学特講	1後		2		0			
1 L	$\perp$	_	小計(6科目)	_	0	12	0		_		
専門	H 2	-	経済政策演習	2前		2			0		
	×		社会政策演習	2前		2			0		
	異 〕	ソリリ									
和目		サーチ									
	子 子	系									
		B.	小計 (2科目)		0	4	0				
	彩	÷-	公共経済学特講	2前		2		0			
	1	学	都市政策特講	2前		2		0			
	5	′J	行動経済学特講	2前		2		0			
	里多		ファイナンス論特講	2後		2		0			4344 /-
	月	展	恐慌論	2後		2		0			4単位 選択
	禾		日本経済特講	2前		2		0			必修
	F	∄	医療経済学特講	2前		2		0			
			ミクロ計量経済学	2前		2		0			
			マネジメント特論	2前		2		0			
			労務管理特講	2後		2		0			
			理論経済学演習 I	1通		2			0		2単位 選択
			応用経済学演習I	1通		2			0		必修
			理論経済学演習 Ⅱ	2通		2			0		2単位 選択
			応用経済学演習 Ⅱ	2通		2			0		必修
			小計(14科目)	_	0	28	0			<u> </u>	

						単位数	ζ	疹	受業形	態	
科区			授業科目の名称	配当年次	必修	選	自	講	演習	実験・安	備考
					修	択	由	義	省	実習	
法博学門	見	法	憲法学	1前		2		0			
学門分基	了 [	77	租税法学	1後		2		0			
野盤	竖	野	特別刑法概論	1後		2		0			
和目		-	民法学 I	1前		2		0			
		和	民法学Ⅱ	1後		2		0			
		目	商法学	1前		2		0			
<u> </u>			小計(6科目)	_	0	12	0				
専門	早 月	2	地域法律実務演習	2通		2			0		
発	Ě	3	地域プロジェクト演習	2通		2			0		
原 の	退り	リサ									
彩目		Í F									
	Ì	系	小計 (2科目)								
	L	目	小計(2件日) 比較憲法学	- 04%	0	4	0				7
	١	学	行政法学	2後 2前		2 2		0			
	١	分						_			4単位
		盚	法人税法特論	2前		2		0			選択
	۱	展	社会保障法学	2前		2		0			必修
			刑事手続法学	2前		2		0			
		目	民事手続法特殊研究	2後		2		0			
			環境法学	2後		2		0			
			公法・刑事法学演習 I	1通		2			0		2単位
			民事法学演習 I	1通		2			0		選択 」 必修
			公法·刑事法学演習 II	2通		2			0		2単位
			民事法学演習Ⅱ	2通		2			0		選択
			小計 (11科目)	_	0	22	0		_		

開設授業科目については各分野の学務係にお問い合わせください。

#### 8. 卒業要件及び履修方法等

文 業 要 件 及 び 履 修 方 法	授業期	間等
【人間文化学分野】 2年以上在学し、共通基幹科目群8単位以上、専門基盤科目群10単位以上、 専門発展科目群8単位以上履修し、合計30単位以上(自身の所属する分野以外 の分野の科目を1科目以上含む)を修得する。かつ当該課程の目的に応じ、修 士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。	1 学年の学期区分	2期
【心理学分野】 2年以上在学し、共通基幹科目群8単位以上、専門基盤科目群4単位以上、専門発展科目群16単位以上、合計30単位以上(自身の所属する分野以外の分野の科目を1科目以上含む)を修得する。かつ当該課程の目的に応じ、修士論文についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。		
【経済学分野】 2年以上在学し、共通基幹科目群8単位以上、専門基盤科目群10単位以上、専門発展科目群8単位以上、合計30単位以上(自身の所属する分野以外の分野の科目を1科目以上含む)を修得する。かつ当該課程の目的に応じ、修士論文又は特定の課題についての研究の成果の審査及び最終試験に合格すること。	1 学期の授業期間	15週
【法学分野】 2年以上在学し、共通基幹科目群8単位以上、専門基盤科目群10単位以上、専門発展科目群8単位以上、合計30単位以上(自身の所属する分野以外の分野の科目を1科目以上含む)を修得する。かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文を提出してその審査及び最終試験に合格すること。	1 時限の授業時間	90分

#### 9. 信州大学大学院総合人文社会科学研究科学位論文等審査及び最終試験並びに修了判定 実施要項

(趣旨)

第1条 この要項は、信州大学大学院学則(平成16年4月7日信州大学学則第2号。以下「大学院学則」という。)第43条の規定に基づき、信州大学大学院総合人文社会科学研究科(以下「研究科」という。)の学位論文又は特定の課題についての研究の成果(以下「学位論文等」という。)の審査及び最終試験並びに修了判定の実施に関し必要な事項を定める。

(学位論文等の提出)

- 第2条 学位論文等の提出は、次の各号のとおり行う。
  - 一 申請者は「修士学位論文等審査申請書」(様式1)に学位論文等,「修士学位論文等要旨」(様式2)を添えて指導教員を経て研究科長に提出する。
  - 二 提出期限は、3月又は9月修了に応じて各分野の定める日とする。

(審査委員会)

- 第3条 学長からの付託を受けて、研究科委員会は申請者1名について3名以上の研究科の研究指導教員(主査1名、副査2名以上)をもって組織する審査委員会を設け、学位論文等の審査及び最終試験を行う。ただし、審査委員会の設置は各分野に委託する。
- 2 前項の学位論文の審査に当たっては、各分野が必要と認めた場合、他の研究科、他の大学院又は研究所等の教員等を副査として加えることができる。
- 3 審査委員会は、学位論文等の審査結果並びに最終試験結果を「修士学位論文等審査及び最終試験結果報告書」(様式3)により、研究科長に報告する。

(学位論文等の審査)

- 第4条 学位論文等審査は、3月又は9月修了に応じて各分野の定める期間に行うと共に、発表会を開く。 (最終試験)
- 第5条 最終試験は学位論文等に関係ある科目について口頭又は筆答により行う。
- 2 最終試験は、3月又は9月修了に応じて各分野の定める期日までに行う。

(修了判定)

第6条 研究科委員会は、審査委員会の報告に基づき、課程修了の可否について議決する。

(学位論文等の保管)

第7条 学位論文等は、審査終了後、学部の図書館及び指導教員がそれぞれ保管する。この場合、指導教員が 学位論文を保管する期間は、当該指導教員が信州大学に在職する期間とする。なお、学位論文は、印刷物又 は電子媒体で保管する。

(雑則)

第8条 この要項により難い事案が発生した場合は、研究科委員会において審議の上、決定する。

#### 附則

この要項は、令和2年4月1日から施行する。

(元号)	年	月	日
Dogwood mode	on (XXXXV/MM/DE	1)	

## 信州大学長殿 To: The President, Shinshu University

学位論文等題名

	_(元号)	年度入学					
	Year of Admission						
	信州大学大学	院総合人文社会科	学研究科				
	総合人文社会			分野			
	Graduate School of Human	ities and Social Sciences, Shinshu U	niversity Departmen	t Division			
	<u>学籍番号</u> Student ID						
	申請者(自国語) Student Name				E∏ Seal		
	英文氏名 Student Name						
	生年月日 昭 Date of Birth (YYYY)	和・平成・西暦 /MM/DD)外国籍の方のみ西暦で	年で記入してください	月	日生		
	修士学位論文等審查申請書 Request for Master's Dissertation or Selected Topical Research Evaluation						
• • • • • •	このたび、信州大学学位規程第4条の規定により、修士( ) の学位を受けたいので、下記の学位論文等を提出いたしますから御審査くださるよう申請いたします。						
-	d regulations of Shinshu Univer				cted Topical		
		記					

※申請者名・英文氏名は学位記に記載される漢字・綴りを記入してください。(※英文氏名 Shinshu Taroh) ※学位論文等題名が外国語の場合は、その和訳を()書きで併記すること。

### 修士学位論文等要旨

Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者/The person who submits a					
	専攻名/Department	総合人文社会科学専攻			
	分野名/Division	分野			
	学籍番号/Student ID				
	氏 名/Name				
論文等題目/Title					
→ → 松 再 ビ (1 000 <del> </del> → N					
論文等要旨(1,000 字以内)/Absti	ract (Within 1,000 characters in J	Japanese or 300 words in English)			

信州大学大学院総合人文社会科学研究科

#### 10. 信州大学大学院総合人文社会科学研究科修士論文評価基準

信州大学大学院総合人文社会科学研究科は、以下の基準に拠り、論文審査および口頭試問等を経て、審査委員会が最終的な評価を決定する。

#### 1. 「独創性・意義]

研究目的,研究手法あるいは研究成果は,十分な独創性または意義を有するか。また,学術研究が従うべき規範を守り,研究者としての研究倫理を身に付けているか。

#### 2. [分析]

研究を遂行するために実施した分析は,適切な方法に基づいて行なわれているか。また,その分析は正確で,結果や解釈が妥当であるか。

#### 3. 「関連資料・参考文献]

研究を遂行するために利用した関連資料・参考文献について,正確な読解,的確な把握,また妥当な解釈がなされているか。あるいは客観的に正当な批判や批評が提示されているか。

#### 4. [論証方法・論旨とデータ(資料)の提示方法]

問題提起から結論にいたる論証方法と論旨は、明解かつ妥当であるか。また実験データ・調査資料の提示 と展開の方法は適切であるか。

#### 5. [表現の的確性]

日本語もしくは使用外国語について、語句や学術用語の使用は的確で、文章表現は論理的であるか。

#### 6. [論文の体裁]

本文,章立て,注記,関連資料・参考文献からの引用,図表等は,論文構成において,体裁が整っているか。

#### 7. [総合的評価]

当該分野の研究において、総合的に評価して修士論文に価するか。

(ただし書き)

- 1)項目2と3の評価基準は、いずれか一方、もしくは両方を採択しうることを示す。
- 2) 参考図書・論文・史料・統計資料・辞書・地図・インターネット資料その他、参照する全ての資料・図版等については、「関連資料・参考文献」と表記した。
- 3) 実験, 実地調査, 聞き込み調査, 情報・資料提供者 (インフォーマント) との面談, 実施する全ての研究 作業については, 「実験・調査」と表記した。
- 4) 前項の「実験・調査」によって収集され、分析の対象となるもの全てについては、「実験データ・調査資料」と表記した。

#### 附 則

この基準は令和2年4月1日より施行する。

#### 11. 成績評価への疑義申立てについて

成績評価に疑義が生じた場合は、成績が開示された日から1週間以内(土日祝日を含む)に、文書の形で(書式指定、メール不可)所属する分野の学務係まで申し立ててください。

#### 12. 長期履修学生制度の取扱いについて

本学では働きながら学ぶ大学院生の修学を助成するために長期履修学生制度を設けています。申請を希望する場合は所属する分野の学務係にお問い合わせください。

巻末の資料「信州大学大学院総合人文社会科学研究科における長期履修学生制度の取扱 要項」もご覧ください。

#### 13. 社会人学生について

大学院設置基準に定める教育方法の特例(授業時間は,勤務条件等を考慮し,通常の授業時間帯及び通常の授業時間帯以外の特定の時間又は時期に設ける)による教育の実施を希望する場合は,指導教員と面談し,今後の研究・学習計画について相談してください。

#### 14. 資格取得について

総合人文社会科学研究科の所定の授業科目の単位を修得することにより、下記の資格が 取得可能または受験資格の取得が可能となります。詳細は各分野の学務係にお問い合わせ ください。

- (1) 人間文化学分野
- · 教育職員免許状
- 専門社会調査士
- (2) 心理学分野
  - 公認心理師
  - ・臨床心理士
- (3) 法学分野
  - ・税理士

#### 15. 休学・復学・退学・研究科間の転科等

(1) 在学中の異動は研究科委員会で許可されるので、原則として異動予定日の<u>少なく</u> とも1ヶ月以上前に各分野学務担当係に相談してください。

- (2) 各学期開始後1ヶ月を過ぎてからの休学は、当該学期の授業料の全額納入が必要となります。
- (3) 休学期間(通算で最大24ヶ月(2年))は、在学期間に含まれません。

#### 16. 住所等届

緊急連絡等に必要となりますので、必ず提出してください。住所および連絡先が変更になった場合は、直ちに各分野の学務係へ届け出てください。届出を怠って必要な連絡ができない場合、研究科は責任を負いません。

#### 17. 証明書発行

- (1) 在学証明書,成績証明書,修了見込証明書,健康診断証明書及びJR学生割引証は,全学教育機構及び長野(教育)キャンパスに設置されている自動発行機で発行できます。発行の際,学生証が必要です。稼動時間は,平日8時30分~17時15分(土日,祝日,年末年始は除く。)です。その他の証明書は,交付願用紙に所定事項を記入して申し込んでください。各学期始めや諸試験等の繁忙期には早めに申し込むようにしてください。
- (2) 上記以外の公的な証明書の発行については、学務係に問い合わせください。

#### 18. 学習関連の情報

- (1) 規程について
  - 信州大学大学院学則
  - •信州大学学位規程
  - ·信州大学大学院総合人文社会科学研究科規程
  - •信州大学附属図書館利用規程
  - •信州大学附属図書館文献複写規程

上記,学則・規程については信州大学のホームページの国立大学法人信州大学規則集で 見ることができます。

#### (2) 公用掲示板

各キャンパスに掲示板が設置されており、大学からの通知を掲示しています。見落としによる不測の不利益を被ることのないよう毎回掲示に注意してください。

#### 19. 健康管理について

#### (1) 総合健康安全センター

松本キャンパスには信州大学総合健康安全センターが本部庁舎一階にあり、医師、保 健師が常駐して診察・応急処置・健康相談に応じています。

長野(教育)キャンパスには信州大学総合健康安全センター長野(教育)キャンパス 分室、教育学部学生相談室が設置されています。

#### (2) 定期健康診断

毎年春に行われる定期健康診断は、学生自身の健康管理上はもちろん、奨学生出願や 就職等の場合に必要となるので、必ず受診するようにしてください。

#### 20. 授業料の納付について

授業料の預金口座からの引き落とし日は、前期分は4月26日、後期分は10月26日 (当該日が金融機関の休日の場合は翌営業日)です。授業料の引き落としを行う預金口座 に授業料相当額を引き落とし日の前日までに用意してください。預金残高不足等の理由に より、預金口座からの引き落としができなかった場合は、翌月の26日(当該日が金融機 関の休日の場合は翌営業日)に再度引き落としを行います。

納付期限までに授業料を納付しないも者は、学則の定めにより除籍されます。 授業料未納の場合は、修了・休学・退学等の身分異動は認められません。

#### 21. 授業料免除・徴収猶予・月割分納について

#### (1)授業料免除

- ① 経済的理由により授業料の支払が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合。
- ② 授業料の各期の納期前6ヶ月以内(新入学生については入学した日の属する学期分は入学前1年以内)において、学資負担者が死亡し、又は本人若しくは学資負担者が風水害等の災害を受けたなど特別な理由により、授業料の支払が著しく困難であると認められる場合

上記①又は②に該当する者に対し、各期ごとに本人の申請に基づき選考の上、授業料の全額又は半額を免除します。

松本キャンパスは学生総合支援センターで、長野(教育)キャンパスは教育学部学務 係で申請を受け付けるので、「掲示板」「キャンパス情報システム」等に注意してくださ い

出願にあたり事前に説明会を行い、申請書類を配布するので出席してください。

#### (2) 授業料徴収猶予

① 経済的理由により支払期限までに授業料の支払が困難であり、かつ、学業優秀と

認められる場合

② 本人又は学資負担者が風水害等の災害を受けるなどやむを得ない事情により、授業料の納付が期限までに困難であると認められる場合

上記①又は②に該当する者に対し、各期ごとに本人の申請に基づき選考の上、前期分は9月末日まで、後期分は翌年2月末日まで授業料の徴収を猶予します。

松本キャンパスは学生総合支援センターで、長野(教育)キャンパスは教育学部学務 係で申請を受け付けるので、「掲示板」「キャンパス情報システム」等に注意してくださ い。

#### (3)授業料月割分納

授業料徴収猶予の申請対象者①又は②に該当すると認められる場合,その期の授業料を月割に支払うことができます。納入額等詳細については、申請書類で確認してください。

#### 22. 奨学金について

本学で扱っている奨学金は、日本学生支援機構の奨学金・民間育英団体等の奨学金があり、「学生生活案内」(冊子)又は信州大学ホームページ「学生総合支援センター」で一覧を紹介しています。

奨学生募集等の情報は、「掲示板」「キャンパス情報システム」または「奨学金担当窓口 (松本キャンパスは学生総合支援センター、長野(教育)キャンパスは教育学部学務係)」 で周知しているので、希望者は、確認してください。

日本学生支援機構奨学金の在学採用の申請受付は4月上旬~中旬,家計急変による申請 受付は随時行っています。

#### 23. 台風・大雪等における授業及び試験の取扱いについて

台風・大雪等により、授業及び試験(以下「授業」という。)の実施が困難又は困難が予測される場合は、気象警報及び公共交通機関の運行状況等により、**教学担当理事若しくは** 部局長(長野(教育)キャンパスのみ)が休講及び授業の再開を決定します。

(1) 対象となる気象警報

キャンパス所在地域の「大雨・暴風警報」、「大雪・暴風雪警報」、「特別警報」

(2) 公共交通機関の運行状況

鉄道(JR・私鉄)・路線バスの運休

#### (3) 休講の判断基準

休講	理事の判断時	気象警報	公共交通機関の運行状況
翌日の授業	前日の夕方	発令が予想されてい	運休が決定している
		る	
午前の授業	当日の7時		
午後の授業	当日の11時	発令されている	運休
夜間の授業	当日の 15 時		

#### (4)授業再開の判断基準

再開	理事の判断時	気象警報	公共交通機関の運行状況
午前の授業	当日の7時		
午後の授業	当日の11時	解除されている	運行
夜間の授業	当日の15時		

<sup>※</sup> 大雪・暴風雪の場合は、警報解除後の積雪・除雪の状況も考慮する。

- (5) 学生には下記の方法をもって周知します。
  - 公用掲示板
  - ・信州大学ホームページ及び各学部ホームページのお知らせ
  - キャンパス情報システムのお知らせ
  - ・授業中の場合は、校内放送又は授業担当教員を通じて周知される ※ なおメールが一斉送信される場合もある

#### (6) 補講

休講があった場合,後日補講が行われます。

#### ハラスメント (嫌がらせ) にあったら 【ハラスメント相談員】に相談してください ~信州大学イコール・パートナーシップ委員会から学生の皆さんへ~



#### ハラスメントって何?

◎ハラスメントとは、信州大学では、「ハラスメントの防止等に関する規程」で、ハラスメントを次の4つに分類しています。(規程全文は、信州大学HP「信州大学について」→「大学概要・理念」→「国立大学法人信州大学規則集」→「規則一覧」→「第1編 全学 第6章 人事」に掲載。)

#### I:セクシュアル・ハラスメント···

- ・ 修学・就業上の地位や権限を背景とした異性への誘い掛け・嫌がらせや、性的意味を持つ言動で相手を不快にさせることのほか、卑猥なポスターなどで修学環境を損ねるようなことも含まれます。
- ・ セクシュアル・ハラスメントかどうかは、基本的には受け手が不快に感じるかどうかです。**当事者間の認識** や意識のズレが原因となることが少なくないだけに、相手を思いやる配慮が根絶の第一歩です。

#### Ⅱ:アカデミック・ハラスメント・・・

- ・ 教員等が教育・研究において、地位・職務権限を利用して学生等に著しい不利益を与えたり、不適切な言動 で環境を害したりする行為を言います。
- ・ 典型的な事例は、人格まで否定するような言葉の暴力、正当な理由なくまったく指導してもらえない、研究・ 論文執筆等の妨害、非常識なノルマや雑用・私用の命令、極度のえこひいき、などです。

#### Ⅲ:パワー・ハラスメント・・・

・ パワー・ハラスメントとは、職員(上司一部下)間の、就業上のハラスメントです。

#### IV: その他のハラスメント・・・

その他のハラスメントとは、セクハラ、アカハラ、パワハラに準じる行為や学外者によるハラスメントです。

#### ハラスメントを受けて辛いと感じたら、ハラスメント相談員に相談してください。

- ◎ハラスメント相談員は、本学の教職員で構成され、全学教育機構、各学部等の男女それぞれ複数名からなります。ハラスメント相談員は、あなたの立場になって相談にのります。
  - ↑・ 秘密は厳守されます。相談したからといって、不利益な取扱いをされることもありません。
  - ハラスメントを受けていることを聴いてもらいたいだけの時も連絡していただいて構いません。
  - 相談は友人と一緒でも構いません。
  - 他学部の相談員に相談しても構いません。
  - ・相談内容によっては総合健康安全センターのカウンセリングを受けることができます。
- ②ハラスメント相談員は、ハラスメント行為を受けているあなたのサポーターのような立場の人です。あなたとの相談の結果、行為者への「申入れ」や「ハラスメント相談調査対策委員会」の設置(裏面※①、②)を<u>あなたが望んだ場合</u>、イコール・パートナーシップ委員会(下記参照)への申請手続について助言してくれます。イコール・パートナーシップ委員会は、関係の部局長と協力して「申入れ」や「ハラスメント相談調査対策委員会」の設置を実施します。

#### ハラスメント相談員への連絡先は?

氏名一覧と連絡先は、ACSU(握手)内お知らせでご覧になるか、各学務窓口あるいは「学生相談センター (0263-37-3165)」にお問い合わせください。

#### 「イコール・パートナーシップ (EP) 委員会」とは?

本学の教職員各4名(男女同数)で構成され、ハラスメントのない信州大学にするために学長の下に設置された委員会です。しかし、真偽を調査する委員会ではありません。学生一人一人の人権を擁護するとともに、修学にふさわしい環境が確保されることを目的とする委員会です。差別・人権などについても疑問や問題があれば、委員会(epiinkai@shinshu-u.ac.jp)か委員いずれかに気軽に相談してください。

#### ※① 行為者への「申入れ」とは?

イコール・パートナーシップ委員会が、行為者に対してハラスメントの原因となった事態の解消を依頼する ことをいいます。事実調査はせず、相手に相談者が傷ついたことを理解して、今後同じことをしないように してもらえばよい、と考えるときに適しています。その際、行為者に対して匿名を希望すれば、そのように 配慮をします。

#### ※② 「ハラスメント相談調査対策委員会」の設置とは?

行為者に「申入れ」をしても事態が解消しない、もしくは、改めて事実調査をした上で判断し、ハラスメント解消のための適切な措置を求めたいときは、あなたの要望によって、学長の下に「**ハラスメント相談調査** 対策委員会」が設置されます。行為者とあなたの双方からの言い分を聞いた上で問題の所在を把握し、それに応じてその後の措置が決まっていきます。

#### 学外にも相談窓口があります。

#### ①主に女性のための相談窓口

施設等名	各相談	電話番号	曜日・時間等
長野県男女共同参画	一般相談、法律相談 (要予約)	0266-22-8822	【一般】 火〜土 8:30〜17:00 【法律】 予約方法、実施日等は直接確認願います。
センターあいとぴあ	女性のためのカウンセ リング (要予約)		第2土・第4金 10:00~15:50 (一人50分) 詳細については電話で直接確認願います。
女性センター・パレア 松本	一般相談、女性弁護士に よる法律相談(要予約)	0263-39-1105	【一般】 (電話) 日、第1・第3水・金 9:00~12:00 (面接) 月・火・木・金 13:00~16:00、 第4金 16:00~19:00 (要予約) 【法律】 予約方法、実施日等は直接確認願います。
長野県警・性犯罪被害 ダイヤルサポート110	相談電話	0120-037-555	24時間対応
上田市市民プラザ・ゆう	専任相談員による相談 (要予約)	0268-27-2988 0268-23-5245	火 11:00~18:00、木 10:00~17:00、 第2・第4土 10:00~17:00 (土曜の相談は2日前までに要予約)
	女性弁護士による法律 相談 (要予約)	0268-27-3123	偶数月第4木、奇数月第2・4木 10:00~12:00 (一人30分・無料)
伊那市人権男女共同参画係	女性のための相談	0265-78-4111	(電話) 平日 8:30~17:00 (面接) 火・木 8:30~17:00 (要予約)
女性の人権ホットライン	女性をめぐる人権相談	0570-070-810	平日 8:30~17:15 ※IP電話からの場合 026-232-8145 (長野地方法務局)

#### ②主に男性のための相談窓口

施設等名	各相談	電話番号	曜日・時間等
長野県男女共同参画センタ	男性のための相談	0266-22-7111	金 17:00~19:00
一あいとびあ	(電話相談)		
女性センター・パレア松本	男性の悩み相談	0263-37-1587	第2・第3・第4火 17:00~20:00

#### ③男女を問わない相談窓口

施設等名	電話番号	曜日・時間
心の電話相談(長野県精神保健福祉センター)	026-224-3626	平日 9:30~16:00
長野地方法務局人権擁護課	026-235-6634	
法務局上田支局人権相談所	0268-23-2001	됐다. 0 - 20 - 17 - 15
法務局松本支局人権相談所	0263-32-2571	平日 8:30~17:15
法務局伊那支局人権相談所	0265-78-3462	

さらに詳しくは、県や市町村のホームページなどをご覧ください。

#### 信州大学キャンパス・コード(基本指針)とは・・・

信州大学では、基本的指針として6本の柱から成るキャンパス・コードを定めています。

※ 全文は、前記「ハラスメントのない大学にするために」→「信州大学キャンパス・コード」をご覧下さい。

○ 個人を人間として等しく尊重します。

- 学問・言論の自由を尊重します。
- 性差別の根絶をめざし、男女共同参画を推進します。
- 人権侵害等を防止します。

○ 権利・権限を適正に行使します。

- プライバシー等を保護します。
- ※ 前頁右端はEP委員会のロゴで、「ep」の文字を男女のハートにデザインし、2つ合わせた四葉のクローバーです。

#### 資料

#### 信州大学大学院総合人文社会科学研究科における長期履修学生制度の取扱要項

この取扱要項は、信州大学大学院総合人文社会科学研究科規程(令和×年×月×日信州大学規程大×号)第14条に定める長期にわたる教育課程の履修(以下「長期履修学生制度」という。)について、社会人学生等を対象に計画的な長期在学・履修により修学の便宜と授業料の軽減を図ることを目的として、本研究科における取扱いを、次のとおり定める。

#### 1. 申請資格

原則として職業を有している社会人とする。

2. 長期履修の開始日

原則として年次の始めとする。

3. 長期履修の在学年限

4年間を超えることはできない。

#### 4. 申請手続き

長期履修を希望する学生は、入学後に「長期にわたる教育課程の履修申請書」(別紙様式2)を研究科長に提出する。

在学生にあっては1年次の後学期が終了する2か月前までに「長期にわたる教育課程の履修申請書」(別紙様式2)を研究科長に提出する。

休学に伴う変更については、「休学に伴う長期にわたる教育課程の履修計画変更申請書」(別紙様式3-1)を研究科長に提出する。

また、相当の理由により長期履修期間を延長する場合は、「長期にわたる教育課程の履修期間変更申請書」(別紙様式3-2)を研究科長に提出する。

#### 5. 履修期間の短縮申請手続き

申請が認められた学生が在学期間を短縮する場合は、各学期が終了する2か月前までに「長期に わたる教育課程の履修期間の短縮申請書」(別紙様式4)を研究科長に提出する。

#### 6. 審査及び報告

研究科長は、提出された申請書の審査を分野会議に付託する。

なお、審査結果は、当該学生あてに許可書(別紙様式 5 , 6-1 , 6-2 , 7 ) を通知するとともに、学長に報告(別紙様式 8 , 9-1 , 9-2 , 10 ) する。

#### 7. 授業料の納入

申請を許可された学生は、「信州大学授業料等に関する規程(平成 16 年信州大学規程第 85 号)」が定める長期履修学生の所定の授業料を各学期の納期限までに納入する。そのほか、短縮を許可された場合及び学年中途で修了する場合も同規程による。

#### 附則

この取扱いは、令和2年4月1日から施行する。

# 総合人文社会科学研究科学 生 便 覧

2020年度入学生用

発行 2020年4月